

令和5年度 国立中央青少年交流の家 教育事業
「生活・自立支援キャンプ」

富士のさと 親子で遊び隊

令和6年1月27日（土）～1月28日（日） 1泊2日



1.目的

ひとり親家庭の子供たちが、普段体験できない活動にチャレンジするとともに、集団宿泊生活を通して、規則正しい生活習慣や成功・失敗体験から学ぶことの大切さを感じる機会とする。また、ひとり親の悩みを同じ境遇の親同士で共有することで、子育てへの前向きな気持ちを高め、子供との交流を通して親子の絆を深める。

2.参加者

ひとり親家庭の子供とその保護者
15家族 38名

3.会場

国立中央青少年交流の家
湖明荘マリーナ（山梨県南都留郡山中湖村山中 236-13）
郷土料理「海馬（シーホース）」（山梨県南都留郡山中湖村山中 86）

4.事業内容

【事業1日目】1月27日（土）

（1）はじまりの会（アイスブレイク）

「手遊び歌」をはじめ、家族紹介を目的とした「何でもバスケット」などの活動を通して、緊張をほぐし、それぞれの家族のことを知りながら楽しむ内容であった。



アイスブレイク

（2）マイスプーン・フォークづくり

材料選びから自分で選び、文字や絵を描き、各自がこだわりを持って、世界に一つだけのスプーン、フォークを制作した。親子も楽しみながら、真剣に取り組んだ。ここで作製したスプーンを夕食のカレーライスを食べるときに使い、笑顔で食べる姿が見られた。



マイスプーン・フォークづくり

（3）野外炊事

ご飯を通常の野外炊事で使う片手鍋ではなく、羽釜を使って炊いた。昔ながらの羽釜を使うことで、昔の懐かしさや羽釜で炊くご飯のおいしさを感じてもらい、普段できない体験になった。

子供たちは野菜を切る、薪を組んで火を起こすなどを初めて体験した。



野外炊事（カレーづくり）

（4）ブレイクタイム（親）、自由遊び（子供）

親と子供に分かれて活動した。子供は体育館で体を動かした。親は、座談会形式で普段の生活や子育ての不安や悩みを共有し、お互いを励まし合うなど交流を深めた。

【事業2日目】1月28日(日)

(1) ワカサギ釣り(山中湖 湖明荘マリーナにて)

ドーム船に乗り、ワカサギ釣りを体験した。初めて釣りをする家族が多かった。各家族ともたくさんのワカサギを釣ることができた。ワカサギ釣りが今回参加する動機づけになった方がいたので、体験できて良かった。



ワカサギ釣り

(2) 昼食 ほうとう(郷土料理「海馬」シーホースにて)

山梨県の郷土料理であるほうとうを食べた。自分たちが釣ったワカサギを店で天ぷらにもらって食べ、これも思い出の一つになった。

5.参加者の声(事後アンケートより)

- ・一緒に思い出を作れて良かった。普段は、怖がりな子が、自分で穴を開けてみたいと頑張っている姿に感動した。家で嬉しそうにフォークやスプーンを使っていて、微笑ましかった。【マイスプーン・フォークづくり】
- ・ご飯が絶妙な炊き加減で感動した。薪をくべて、火を起こすところから体験できて、息子は大喜びだった。子供も普段とは違うお手伝いや、役割に挑戦できて良かった。【野外炊事】
- ・いろいろな方の話、経験談が聞けてすごく参考になった。【ブレイクタイム】
- ・普段関わっている友達(保護者同士)には話せないような話のできたので、すごくストレス発散になった。【ブレイクタイム】
- ・普段、体験できないことに取り組めて良かった。子供がワカサギを釣って感動していた。自力で行くのは不可能だと思っていたので、体験できて良かった。【ワカサギ釣り】

6.成果と課題

(1) アンケート結果 回収 15 家族(参加 15 家族・回収率 100%)

事業全体の満足度			
満足 15 家族(100%)	やや満足 0名(0%)	やや不満 0名(0%)	不満 0名(0%)

(2) 成果と課題

今回の目的とアンケートを照らし合わせ、

○普段できない活動にチャレンジする⇒【親】「野外でのカレー作り」、「ワカサギ釣り」等の体験内容に対するチャレンジや「子供を叱らない」、「なるべく子供に手を貸さず、自主的にやるように見守る」等子供との接し方に関するチャレンジが多数あった。【子】「野菜を食べた。」「初めて包丁で野菜を切った。」「『ありがとう』を言った」、「友達をたくさん作った」、「薪を燃やした」等のチャレンジがあった。

○集団宿泊生活を通して、規則正しい生活習慣から学ぶ(普段の生活に生かせそうなこと)⇒【子】「手伝いをしてみたい。」「時間をしっかりと守る。」「あいさつをする」等の学びがあったようだ。

○成功・失敗体験から学ぶ⇒【親】「子供たちが自分のことは自分でやり、率先して考えて行動できたかなと見て感じ嬉しかった」等、普段よりゆとりを持てたことで子供の成長、良さを見つけた方が多かった。

○ひとり親の悩みを同じ境遇の親同士で共有することで、子育ての前向きな気持ちを高める⇒「普段は話せない事を相談でき、ひとり親でも色々な事情のある方がいて、皆さん頑張っていると思うと、私も頑張れると思った。」

○子供との交流を通して親子の絆を深める⇒参加者全員が深めることができたという回答。

以上のことから、目的に対しての成果があったと考える。

●参加者が慌てることなく、スムーズに進めることができた日程であった。しかし、予定していた時間よりも遅くなったり早くなったりすることがあった。そのときの対応を職員、ボランティア、参加者で共通理解し、臨機応変に対応する必要がある。

●事前の安全対策を徹底的に行う等を行う必要がある。事前に対策できることはすること、何か起こってしまったらそのときの対応をきちんとすること等を事前にスタッフで共有しておく。